

天敵が活躍するいちご生産

～生産力向上と持続性の両立をめざすみどり戦略～

【害虫との闘い】

いちごを生産するうえで、アブラムシやアザミウマといった害虫の発生が多いと、生育が衰えて収量が減ってしまいますが、近年は害虫の薬剤抵抗性などから、化学農薬での安定的な防除が難しくなっています。

大分県宇佐市で、いちごを大規模に生産している株式会社アクトいちごファームでは、大分県北部振興局と連携して、効果的な防除が行えるように、さまざまな工夫や実証を行ってきました。

【天敵の効果的な活用】

アブラムシの防除には、天敵のコレマンアブラバチを放飼します。いちごの近くに、「おとり」のバンカー植物として麦を植えておくと、麦に付くアブラムシを餌に天敵が増え、安定的にいちごのアブラムシを退治するという仕組みです。

【農薬散布の減少】

天敵を放飼する最適のタイミング、化学農薬との組み合わせ方法、麦の最適な植栽場所など、さまざまな実証を行った結果、アブラムシについては、苗の定植後、天敵を2回放飼することで、十分な防除効果が現れるようになりました。

ハウスへの害虫侵入を防ぐ防虫ネットや、温湿度、CO2濃度などのハウス内環境の制御も組み合わせた総合的な害虫管理により、アブラムシ防除のために化学農薬を使う必要がなくなり、農薬散布労力の大きな軽減に繋がっています。

このほか、アザミウマの防除にも、天敵のククメリスカブリダニを活用しています。

【今後に向けて】

令和6年は、夏季の高温の影響で、アザミウマの発生が、例年になく長期間にわたり多かったため、今後に向けて、さらに防除方法を改良していきたいとのことです。

天敵を有効に活用し、みどり戦略が目指す「農業の生産力向上と持続性の両立」に向けて、農業生産者と県の連携により、着実に取組が進んでいます。



【いちごの生産状況】

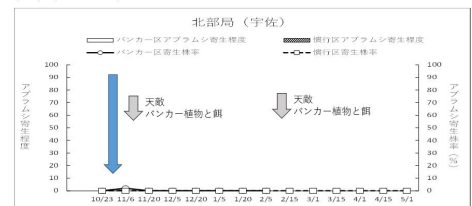


【容器入り天敵】

【環境制御機器】

4 実証技術の結果

(1) アブラムシ



◆結論◆ 基本は1回目を10月末に導入したい
定植前にCO2処理等で防除を行い、定植後に天敵を導入すると、栽培終了まで、アブラムシの発生がなかった。

【↑実証データ（抜粋）↓】

6 アブラムシバンカー成功のコツ

(2) バンカー法の麦

◆何をどこに植えている？



アブラムシバンカー
ベンチに直接植える



アフィバシを4分割し
ベンチに直接植える



麦の管理の労力とバンカー麦の生育を考え、ベンチ上に定植